

## 会 議 要 録

名 称	第4回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日 時	令和元年11月25日(月) 午後2時00分から午後4時00分まで
場 所	豊橋市役所 東館8階 86会議室
出席委員	稲田充男委員、山田剛史委員、稲垣ローザ委員、夏目美鈴委員、鈴木真理子委員、鈴木幸宏委員、長坂英樹委員
欠席委員	川本恭久委員、長崎正敏委員、古地英明委員
環 境 部 職 員	環境部長 小木曾充彦、環境政策課長 小林正彦、廃棄物対策課長 佐藤実、収集業務課長 若子尚弘、資源化センター長 提髪宏彰、施設建設室長 前田隆男、埋立処理課長 田邊章裕 環境政策課 課長補佐 井上知之、資源循環グループ主査 三木寅男、担当 森敬広
内 容	1. 議題 2. その他
議題の概要	議題1 豊橋市のごみ減量施策に対する提言(案)について 議題2 提言書の構成案と今後のスケジュールについて

## 第4回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日 時：令和元年11月25日（月） 14：00～16：00

場 所：豊橋市役所 東館8階 86会議室

司会：環境政策課長

○ あいさつ（委員長）

《議 事》

事務局：議題1「豊橋市のごみ減量施策に対する提言（案）について」のリサイクル率の向上に向けてについて説明（環境政策課長補佐）

委 員：自身が所属する団体の集まりで、他市在住の方々に「雑がみ分別お試し袋」を紹介したところ、好評だった一方で、「古紙とは何か」、「雑がみとは何か」という意見があった。

「古紙」や「雑がみ」を、なんとなく「リサイクルできる紙類」とイメージしていたが、「ふるいかみ」や「ぎつがみ」では、リサイクルできる資源というイメージにつながり難い考える。

「資源化できる紙」のように、資源というイメージにつながり易い名称に変えると良い。

事務局：新たな名称の考案は容易では無いものの、資源をイメージし易くなるように取り組みたい。

委 員：古紙や雑がみという名称そのものの認知度は低いと感じる。

かつて「廃品回収」と呼ばれていたものが「資源回収」と名称を変えて

定着しているように、古紙や雑がみも、「資源」という言葉を入れた名称とすると、意識が変わるのではないかと考える。

委員：2～3円/kg程度で買い取られていた古紙の買取単価が0円となった。収益の目減りは地域の役員も含めた地域全体の士気に深くかかわる。

古紙の売却単価は市況の影響が大きく、このような状況が続くと、地域資源回収を増やすどころか、維持することも難しい。ごみ減量が遠のかざるを得ない状況にあると考える。

委員：ごみステーションを利用した古紙の行政回収の導入は難しいのか。

事務局：古紙の行政回収は、行政が全てを担うことで、利便性は高まるが、必要経費を始めとした相応の負担も行政にかたよる。地域資源回収という地域の自助努力でまかなえている部分もあり、行政回収に伴う経費や、地域活動への影響という視点をもって、行政回収のメリット・デメリットを踏まえた、委員会のご意見を頂きたいと考える。

委員：古紙の行政回収は、市民全体にとって、必ずしも歓迎されるものではないという解釈で良いか。

委員：地域資源回収に、積極的に取り組んでいる立場とすれば、必ずしも歓迎できない。

委員：スーパーやホームセンターなどにある古紙回収コンテナが、ここ数年で普及してきたが、地域資源回収への影響はどうか。

委員：雑がみの回収量は増えているが、全体は減っていると考ええる。

委員：古紙の行政回収は、うまく回っている地域の輪を乱す可能性がある。  
地域資源回収が活発な地域はそのままに、不足地域に限って古紙の行政回収を導入するなど、併用する形が望ましいと考える。

委員：提言の骨子案にある環境教育を、中学生までに限らずに、高校生や大学生にも広げると良い。

委員：教育という側面から、中学生までとするのであれば、大人に対する取り組みを提言に盛り込むと良い。

委員：地域住民のごみステーション立ち番による分別指導など、地域の自助努力による、きめ細やかな取り組みが最も効果的と考える。

委員：地域の自助努力と、行政としての後押しを提言に盛り込むと良い。

委員：地域住民がお互いに声をかけあい、地域に関心を持つことで、地域全体の意識が高まり、分別の徹底やリサイクルの推進につながると考える。

事務局：ごみの減量やリサイクルに関心のない人にどのように働きかけていくべきかを、行政として、検討していきたいと考える。

委員：地域住民がお互いに声をかけあうことが、関心のない人への働きかけにつながると考える。

委員：「どうすれば市民にやってもらえるか」ではなく、「どうすれば市民がやろうと思えるか」という視点をもって取り組むと良い。

委員：自治会に加入しない人が増えているなかで、行動につながらない理由に着目して取り組むと良い。

例えば、雑がみ分別お試し袋に載せているイラストに「雑がみに出せないもの」は使わずに、「雑がみに出せるもの」だけを使えば、「どれが雑がみか」が分かり易くなり、分別に取り組む人が増えると考えます。

受け手に伝える情報を、促したい行動に限った情報に限定して絞り込むことで、受け手の行動につながり易くなると考える。

委員：地域の自助努力でまかなう部分はそのままに、不足部分を補う形での、地域の特徴に合わせた、行政としての古紙の持ち出し機会の拡充を求める提言とすると良い。

事務局：議題1「豊橋市のごみ減量施策に対する提言（案）について」の事業系ごみのリサイクルの促進について説明（環境政策課長補佐）

委員：石巻地域の雹被害で廃棄物となった柿を、市が集めバイオマス利活用センターで処理したことに関して、生産者から、「今回初めて、市が柿を処理してくれた。毎年、同じくらいの柿を農地還元処理しているが、なぜ今回だけ、市が受け入れたのか分からない。」という話を聞いた。なぜ、今回に限って、市は通常と異なる対応を取ったのか。

事務局：通常、農業者が廃棄する柿は、事業系一般廃棄物として、市の施設に自ら搬入するか、市の許可を受けた処理業者に委託するか、のどちらかで処理することが原則であり、いずれも相応の費用負担を要する。今回の柿は雹という特殊な自然現象が要因で、且つ、被害が大きいため、いわゆる災害廃棄物として市が収集し、市の責任で処分した。通常の事業系一般廃棄物とは違う、災害廃棄物として、今回の柿を処理したことから、市が通常と異なる対応を取ったように生産者が受け取ったと考える。

委員：排出事業者が市の取り組みをよく理解しないまま、ごみを処理しているのが現状である。排出事業者の理解を深める取り組みが必要と考える。

委員：提言に有るように、古紙のリサイクルが事業系ごみ減量の第一歩と考える。ごみの分別は事業者にも利点があることを提言に加えると良い。

事務局：議題1「豊橋市のごみ減量施策に対する提言（案）について」の家庭系ごみの有料化について説明（環境政策課長補佐）

委員：提言の骨子案の文面をもう少し短く、コンパクトにすると、伝わりやすく、良いと考える。

委員：自身が所属する団体の集まりで、家庭系ごみの有料化について紹介したところ、「既に有料化していると思っていた」という意見や、「不法投棄の増加が心配」という意見が多かった。

また、ごみ袋にバイオプラスチックを使うための有料化であれば肯定的な意見が多かった。

大義名分のある有料化は受け入れられやすい。特に、ごみ処理費用の確保ではなく、環境に配慮した取り組みの導入を大義に据えると、市民理解を得られやすくなると思う。

委員：ごみの減量や、リサイクルが進めば、家庭系ごみの有料化を導入せずとも良いのか。

事務局：指定ごみ袋制度や生ごみ分別の導入をきっかけに、ごみ減量が大きく進んだが、次期焼却施設の整備に向け、さらなる減量を目指している。

掲げる目標と実際のごみ排出量の推移を比較する中で、目標に届かない場合の、ごみ減量に向けた有効な手段の1つと考える。

委員：家庭系ごみの有料化が、非常にごみ減量効果の高い手段であることに異論は無いが、ごみの減量に向けた最終手段とする点に疑問がある。

数ある手段のうちの1つという視点を持つと良いと考える。

委員：ごみの処理には相当の経費を要するにもかかわらず、ごみの処理は無料という根強い市民意識があるというのが現実である。

ごみ処理経費を全て税金でまかなうか、受益者負担として、市民が直接負担するかの違いである。

ごみ処理は多くの経費を要する一方で、ごみの減量により経費を削減できるということを意識づけると共に、経費の削減が進まなかった場合の手段として有料化があるということが伝わる提言とすると良い。

委員：全体を通して、ごみの減量や分別、リサイクルの推進がまわりまわって自らの利益になるということが伝わる提言とすると良い。

委員：豊橋商業高校の生徒が野村証券豊橋支店で、ごみ減量に向けた提言についての成果発表をしたという新聞記事を見た。

様々な活動主体が個々に活動するだけでなく、情報の共有や発信を通じてうまく連携できると良い。

委員：フェイスブックやインスタグラムなど、様々な SNS の場で、ごみの減量に関する投稿が増えれば、おのずと情報共有や個々の連携が広まると共に、市民、特にこれからの世代の関心が高まると考える。

委員：中高生の取り組みや地域の活動など、ごみ減量やリサイクルの推進に関する運動を表彰する、あるいは、競わせて、取り組む側の士気を高めるといように、市民が関心を持ち、行動しようと思わせるためにはどうすれば良いかという視点をもった取り組みを提言に盛り込むと良い。

委員：「ほめて育てる」、「感謝してねぎらう」といように、気持ちよく取り組んでもらうためにはどうすれば良いかという視点をもった取り組みを提言に盛り込むと良い。

委員：これまでの意見を網羅的にまとめた良い提言の骨子となっている。今回の委員会での意見を加えて、最終的な提言を取りまとめると良い。

事務局：議題2「提言書の構成案と今後のスケジュールについて」説明（環境政策課長補佐）

委員：全体として良いが、提言書の中に、他の自治体の活動事例の記載を盛り込むと良い。

○ その他

特になし